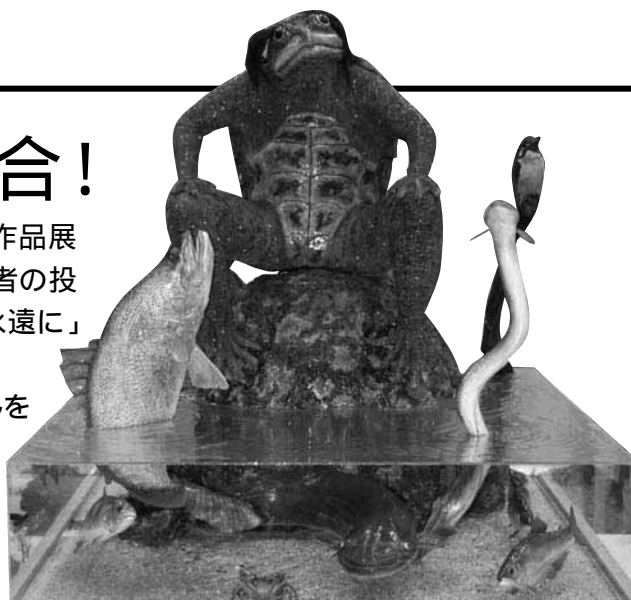


きらら大正にカッパが大集合！

2月4・5日の両日、「第3回四万十川カッパ造形大賞」の応募作品展示と公開審査がきらら大正で行われました。四万十町長賞は来場者の投票により決定。広島市の造形作家、三沢はじめさんの「四万十川よ永遠に」が選ばれました。

4日には、「四万十川カッパサミット」も開催されカッパで町おこしを図る8都道県10団体による、それぞれの「カッパ自慢」が披露されました。

カッパに扮した地元住民らによる大正かっぱ音頭や、県観光特使「はちきんガールズ」による踊りなど、各団体のメンバーも一緒に歌って踊って交流を深めていました。



四万十町長賞に輝いた三沢はじめさんの作品



応募作品 433 点の力作が並びました



昨年四万十町長賞を受賞した福井市のミュージシャン
岩堀さんのバンドも出演



携帯電話のエリアが 広がりました

四万十町が本年度に整備する携帯基地局が、2月末に完成しました。町では平成21年から携帯不感地区の解消に向け、携帯基地局の整備を行ってきました。そして、3月には志和峰、道德、上秋丸、芳川地区の4局が開局し、NTTドコモの携帯電話が利用できるようになりました。7月末からはKDDIのサービスも開始される予定です。



巻き寿司教室



2月18日、十和隣保館で四万十町青少年育成町民会議主催の「巻き寿司教室」が開催されました。四万十町青少年育成町民会議は、子供たちの健全育成を目的にさまざまな活動を行っています。今年度第5回の事業となる「巻き寿司教室」では、町内の小学生と保護者28人が集まりました。十和婦人会の方の指導で、自分たちで焼いた薄焼き卵を使った寿司を巻きました。また椎茸や人参などを入れた海苔の寿司やコブの巻き寿司も作りました。そして、大きな皿鉢にフルーツも添えながら盛り込みました。初めて経験する子もいましたが、みんな上手に巻き寿司ができました。

